



対馬市長 比田勝 尚喜

謹賀

新年のご

新年あけましておめでとうございます。

市民の皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。また、日頃より市政に対しまして深いご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年は、元号が「平成」から「令和」へ改元された歴史的な年であり、その二文字に込められた思いのとおり、市民一人ひとりが大きな花を咲かせることができる対馬づくりに邁進することを深く胸に刻んだところでございます。

近年、日本各地で大規模な自然災害が発生し、昨年は、本市におきましても50年に1度の記録的な大雨に見舞われ、河川の氾濫や土砂崩れなどにより、広範囲に渡る家屋の浸水、また損壊などの被害が発生し、市民皆様の心にも大きな爪痕を残すこととなりました。

その中、特に大きな被害を受けた佐護地区においては、消防団を中心に区民の皆様が「自助・共助」を体現していただき、被害の拡大防止、そして復旧に汗を流していただいたことに改めて感謝を申し上げますとともに、この度の災害を教訓に公助の連携の在り方を検証し、更なる地域防災力の強化に努めて参ります。

さて、市長就任以来、粉骨砕身の覚悟で取り組んでまいりました本市の最重要課題である人口減少対策につきましては、しま暮らし支援補助金やお試し住宅制度の新設、また、一定条件を満たせば返還を免除される奨学金制度の創設などUIターン者のニーズに合わせた支援と、有人国境離島法における雇用機会拡充支援事業や一次産業の後継者対策などによる相乗効果から、移住者も増加傾向にあります。

また、返礼品付きふるさと納税制度に移行して3年を経過しましたが、寄付額は順調に伸びを示し、雇用の創出や所得の向上など地場産業の活性化にも大きく貢献しております。

交流人口拡大施策につきましては、41万人を超える勢いで来島していた韓国人観光客は、昨年7月の日韓貿易摩擦問題から激減する事態となり、観光産業は予測もしない大きな打撃を受けることとなりました。

一方、待望の東横イン対馬比田勝のオープンは、その最中となりましたが、博多・比田勝・釜山を航行する混乗便の増便・増席や今年3月末からは、オリエンタルエアブリッジ（株）が対馬福岡航空路線の一部に参入し、全日空（株）との共同運航便に限り、一部座席の料金を島民割引並運賃に設定するなど、国内からの誘客を目指した観光客の受け入れ態勢は、ここ数年確実に進んでおります。

また、観光客激減に対処するため、国、県の支援をいただき、関係団体等ともスクラムを組み、国内観光客の誘客をはじめとする各種施策を展開しており、今年もその取り組みを更に強化してまいります。

加えまして、対馬市福岡事務所及びアンテナショップ「よりあい処つしま」は、福岡国際会議場側へ移転し、新たに4月から運営及び営業を開始します。そして、国内外から多くの来訪者の交流拠点施設として建設を進めております対馬博物館や朝鮮通信使資料館、また、海の玄関口である厳原港国内ターミナルは、令和2年度中の完成を予定しております。

その他、対馬の資源を後世につなぎ、安心して暮らし続けることができる環境を整えるため、木質バイオマスエネルギーの活用や自動運転車両の導入実験、海岸漂着ごみ対策、磯焼け対策、有害鳥獣対策等による環境・資源の保全、その他子育て世代や高齢者支援などの施策をこれまで以上にスピード感をもって推進し、着実につしまチカラを高めてまいります。

結びに、私たちのふるさと対馬は、先人たちのたゆまぬ努力と情熱、そして、挑戦によりその礎が築かれてきました。今を生きる私たちがその思いをつなぎ、未来へ続く道を照らし続けていかなければなりません。

その先頭に立ち、歩を進める所存でありますので、市民の皆様には、より一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

新年

あいさつ

対馬市議会議長 小川 廣康



新年あけましておめでとうございます。

市民の皆様におかれましては、希望に満ちた令和2年の新春をご家族おそろいでお迎えのことと心からお慶び申し上げます。年頭にあたり市議会を代表して、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。市民の皆様には、日ごろから市政及び議会活動に対して深いご理解と温かいご支援を賜り心より厚くお礼申し上げます。

私たち、対馬市議会は、年4回の定例会において、提案された議案について、慎重に審査を進め、市長部局と一体になって、対馬市の活性化のための議論を重ね、活動を続けているところでございます。また、常任委員会についても、各地域の実情を細かく理解すべく、自ら足を運んで所管事務調査を精力的に実施しているところであります。

また、国境離島新法に係る施策の推進を図るため、国境離島活性化推進特別委員会におきましては、本土と対馬を結ぶ航路・航空路運賃の低廉化、生活や事業活動に必要な物資運送費用の負担軽減などの重要課題に取り組んでいるところでございます。

議員一同、安全・安心のまちづくりを市民の皆様と一体となって進めてまいりたいと決意しているところでございます。市民皆様のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

昨年は、平成の天皇陛下が4月30日に退位され、皇太子殿下が5月1日に第126代天皇に即位されました。皇位継承に伴いまして、元号が「令和」に改まり、10月22日には即位を内外に宣言する「即位礼正殿の儀」が行われました。そういった大きな時代の変化の一方で、台風などによる大きな自然災害が全国各地で発生しております。

対馬市におきましても、昨年、7月から9月にかけての大雨及び台風によりまして「大雨特別警報」や「50年に一度の大雨」が3度も発表され、市内各地に甚大な災害をもたらしました。被災されました市民の皆様には、心からお見舞い申し上げます。

また、日韓関係の悪化によりまして、7月から韓国人観光客が激減し、前年と比べますと、7月は4割減、8月は8割減、9月以降は9割の減とい

った状況でございます。消費額も、10月までの4か月間で、約23億円が減少したという推計もございます。

このような状況を打破するために、市長部局と一緒にあって、即効性があり、効果的な施策を打たなければならないと考えております。

市民皆様の信頼と負託に応えられるよう、全身全霊で取り組んでまいり所存でございます。

議会運営におきましては、昨年6月の定例会からタブレット端末による完全ペーパーレス会議を実施しております。議員、執行部ともに、タブレットの操作も次第に習熟してきており、ペーパーレス化によりまして、事務の効率化、経費の削減につながるものと期待しております。

また、議会からの情報発信として、定例会ごとに、年4回、議会だよりを発行しております。議会広報編集特別委員会において、編集を行っており、より一層の誌面の充実にも努めながら、今後も継続して発行したいと考えております。

議会は、二元代表制のもと市長とともに本市を支える一翼を担っており、議員それぞれが市民の皆様への負託に応えられるよう、ラグビー日本代表のように「ワンチーム」として連帯を深め、一致協力し、市民の皆様により近いところで、市民の皆様への目線にたった議会活動を続け、対馬市の未来を切り開いていくために、積極的な政策提言を行い、信頼される議会の構築に取り組んでいく所存であります。

地域創生が求められる今日、地方自治の自主・自立が一層重要となってまいります。地域活性化に向け、議会と行政が切磋琢磨して、地域に応じたまちづくりを進めていくことが求められており、地域の熱意と力量が問われているところであります。

私ども対馬市議会といたしましても、より豊かな住みよいふるさとづくりを目指し、今後さらなる創意工夫を重ね市民皆様のご期待に応えるよう決意を新たにしておりますので、どうか本年も相変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

終わりに、皆様のご健勝とご繁栄を心からお祈りいたしまして、年頭のごあいさつといたします。